

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

July 9, 2021

パウエル FRB 議長の議会証言に注目

- ◆ドル円は、パウエル FRB 議長の議会証言に注目
- ◆米 6 月の消費者・生産者物価指数、財政赤字、小売売上高、地区連銀景況報告にも注意
- ◆ユーロドルは、欧州中央銀行 (ECB) の「インフレ目標 2%」で続落か

予想レンジ

ドル円 106.00-111.00 円
ユーロドル 1.1500-1.2000 ドル

7 月 12 日週の展望

ドル円は上値が重い展開か。パウエル FRB 議長は、14 日に下院金融サービス委員会で半期に一度の議会証言を行う。注視している黒人の失業率や白人非大卒者の失業率が 6 月は上昇していたことから、インフレ高進は一過性、一時的な現象として、2023 年末までのゼロ金利政策の継続を強調すると予想されている。リスクシナリオとしては、8 月 26-28 日のジャクソンホール会合でテーパリング（資産購入の段階的縮小）開始に言及するのではないかと市場の警戒感を裏付けるタカ派的な見解が表明された場合となる。

また、米国では 8 月 1 日に法定債務上限が復活するが、イエレン米財務長官は、連邦政府の債務上限を早急に引き上げるか上限適用を停止するよう議会に要請するとともに、このままでは 8 月中にも米国が債務不履行（デフォルト）に陥る深刻なリスクがあると警告している。10 年前の 2011 年 7 月の債務上限引き上げを巡る民主党と共和党の協議や、8 月 5 日の米国債格下げ時、パウエル FRB 議長は超党派政策センター客員研究員として、両党の対立の渦中で奔走していた。債務上限への見解にも注意したい。

経済指標では、6 月の消費者・生産者物価指数は、低迷していた昨年 6 月に対するベース効果により、上昇することが見込まれている。6 月の小売売上高は、5 月に前月比 1.3%減となり、経済再開による支出の対象が財からサービスへ移行していることが示唆されたが、同じ傾向が継続しているのか否かに要注目か。6 月財政赤字は、8 月 1 日に連邦債務上限が復活し、財政の崖への警戒感が高まりつつあることから注意したい。2021 会計年度（20 年 10 月～21 年 9 月）の 5 月までの財政赤字は、2 兆 637 ドルとなり、過去最大の 3 兆 1319 億ドルを記録した 2020 会計年度（19 年 10 月～20 年 9 月）の同時期の 1 兆 8802 億ドルを上回っている。米議会予算局 (CBO) は、2021 会計年度の財政赤字は 3 兆ドルと、過去最大の昨年度に近づくとの見通しを示している。

ユーロドルは、欧州中央銀行 (ECB) がインフレ目標水準を「2%を下回るがそれに近い水準」から「2%に引き上げ、必要ならオーバーシュートの余地を容認する」ことで合意したことから続落が予想される。さらに、ユーロ圏での新型コロナウイルス変異株の感染拡大がユーロ売りに拍車をかける可能性にも警戒したい。一方、英国と欧州連合 (EU) との北アイルランドを巡る「ソーセージ戦争」が 3 カ月の停戦で合意したことは、ユーロ買い要因となっている。ユーロ圏 5 月鉱工業生産にも注目している。

7 月 5 日週の回顧

ドル円は、米 10 年債利回りが 1.44%台から 1.24%台まで低下したことから、111.19 円から 109.53 円まで下落した。ユーロドルは、ECB がインフレ目標水準を 2%に引き上げて、必要ならオーバーシュートの余地を容認することで合意したこともあり、1.1895 ドルから 1.1782 ドルまで下落した。ユーロ円は、131.87 円から 129.63 円まで下落した。(了)